

研究機関名：札幌東徳洲会病院

承認番号	22102
課題名	大腸内視鏡的粘膜下層剥離術における牽引処置具に関する検討
研究期間	実施許可日～2027年12月1日
研究の対象	2014年11月～2022年12月に当院で大腸腫瘍に対して内視鏡的粘膜下層剥離術を受けられた方
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：年齢、性別、診断名、内服薬、内視鏡診断、治療内容、病理組織診断の結果等） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ）
外部への試料・情報提供	<input type="checkbox"/> 自施設のみで利用 <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究グループ内（提供先：旭川医科大学）（提供方法：電子的配信） <input type="checkbox"/> その他（提供先： ）（提供方法： ）
研究組織	代表機関・研究代表者： 旭川医科大学 内科学講座 病態代謝・消化器・血液腫瘍制御内科学分野（消化器・内視鏡学部門） 高橋 慶太郎 共同研究機関： 旭川厚生病院 消化器科・医長 田中 一之 市立旭川病院 消化器内科・医長 岩間 琢哉 旭川赤十字病院 消化器内科・医員 黒田 祥平 遠軽厚生病院 内科・医員 武藤 桃太郎 名寄市立総合病院 消化器内科・医員 宮澤 佑貴 札幌東徳洲会病院 消化器内科・部長 木村 圭介 富良野協会病院 消化器内科・医員 齊藤 成亮
研究の意義、目的	<p>大腸腫瘍に対して内視鏡的粘膜下層剥離術を行う際には、牽引処置具を使用することによって治療時間が短縮させることが報告されています。牽引処置具は難易度が高い病変に対して術前より計画的に使用する場合（計画使用群）もあれば、治療途中に手技が停滞した場合には局面を打開するために牽引処置具を使用する場合（追加使用群）があります。従来の研究は主に計画使用群の報告であり、手技が停滞してから使用する追加使用群の効果は明らかになっていません。また、手技が停滞するような治療困難例にはスネアを併用する方法も報告されていますが、牽引処置具あるいはスネアのいずれを用いた方がより適切なのかという検討も行われていませんでした。今回、当院および共同研究機関で施行した大腸内視鏡治療において、牽引処置具あるいはスネアを使用した場合の治療効果を明らかにします。</p>
研究の方法	当院および共同研究機関で大腸腫瘍に対して内視鏡的粘膜下層剥離術を受けら

	れた方の年齢、性別、診断名、内服薬、内視鏡診断、治療内容、病理組織診断の結果などを解析します。
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 〒065-0033 札幌市東区北 33 条東 14 丁目 3 番 1 号 電話: 011-722-1110 札幌東徳洲会病院 消化器センター 堀内 正史</p> <p>研究責任者： 札幌東徳洲会病院 消化器センター 木村 圭介</p> <p>研究代表者： 旭川医科大学 内科学講座 病態代謝・消化器・血液腫瘍制御内科学分野（消化器・内視鏡学部門） 高橋 慶太郎</p>